

時代の精神状況から見た池田大作幸福思想の三つの領域

叢 暁 波

概要：生命の本質から出発し、現代人の生活環境に注目することを通じて、現代人の幸福つまり「よりよい人生を送る」ことに力を注いでいくこと、これこそ、池田大作先生の理論と実践における一貫した姿勢であり、主旨であると考えられる。池田大作先生の幸福思想は、生命・生存・生活の三つの領域を通じて、平和主義・人間主義・文化主義・そして教育主義における理論と実践の中に含まれている。幸福思想の三つの領域は、池田先生の理論と実践の枠組みを総体的に把握する基本的な手がかりであるだけでなく、現代人が人生の意味を追求し、自身の存在について考え、生活を改善する効果的な方法だと考えられる。

キーワード：池田大作；幸福；精神状況；現代人

池田大作先生は、現代においては著作が豊富であり、広く影響を及ぼす数少ない思想家及び社会活動家である。しかし、長い間、池田先生の思想に対する評価は、賞賛と批判の両方が存在し、評価も一致した結論に達することができていない¹。では、どのように池田先生の社会、人生、信仰及び自我に関し、また、教育、平和、環境及び芸術等の多分野に及ぶ思想を総体的に把握し理解すべきなのか。これは池田大作思想研究の前提条件であると考ええる。

アリストテレスやジョン・スチュアート・ミルなどの学者は、幸福は人類のあらゆる行動の目的だと指摘している。人は誰でも幸福を追求しており、人それぞれ幸福についての理解を持っている。

ハーバート・スペンサーは「直接的な目的としての幸福」について、「幸福の基準は常に変化する。それぞれの時代、それぞれの民族の中においては、それぞれの階級により、人々のそれについての見方は異なっている。流浪の民であるジプシーは固定した家には飽き飽きするが、スイスの人は家を持たなければ不幸と感じる。ヘブライ人の言う天国は、『金と宝石ばかりの街』で『豊富な穀物と美酒がある』。トルコ人の考える天国は妖艶な美人が充満した部屋であり、アメリカのインディアンは楽しい狩猟場である。ノルウェー人の楽園は戦争や傷に対する神秘的な癒

Cong Xiaobo (創価教育研究所教授)

¹ 韓东育:《寻找池田哲学的原点》, 载《与池田大作对话文明重生》, 中国社会科学出版社, 2011年版, 第34页。

しが毎日のようにある。オーストラリア人の希望は、死んだ後に『1人の白人になって、6ペンス硬貨をたくさん持っていること』である。このように個人の状況は異なっている。ルイ16世は『最大の幸福』を『水門建造』と解釈しているが、その後継者は『帝国建設』と解釈した。商人と芸術家の雄志は決して同じではない。もし我々が農民と哲学者の空中楼閣を比較することができるならば、建築様式がかなり異なっていることがわかる²。一人一人の幸せに関する理解は同じではないが、しかし、言うまでもなくあらゆる時代にあらゆる特定の環境の中で、人々はよりよい生活に対する想像と望みを持っていることは間違いない。

人類は今まで発展し、無数の輝かしい文明を生み出してきたが、度々低レベルの不賢さと明らかな愚かさもよく示してきている。それだけではなく、プラトンと孔子以来の長い思想史における人類社会と倫理についての探求は、根本的に超越があまりなく、現代人の生活は相変わらず色々な葛藤と困難に面している。池田大作先生の幸福思想は、先生の格調の高い人生理念を体現しており、現代人の生活環境に対する彼の深い思慮も反映されている。その理論と実践は例外なく現代人の生活環境に基づき、人々の生活に注目し、反省とその超越から、自分自身を含め現実の世界の改善と創造を通じて、現代人の幸福を実現しようとしていると考えられる。

池田先生の幸福思想は、生命の尊厳と価値、生存の実践と徳性、及び生活の調和と美という三つの領域が具体的に示され、私たちがこの時代の精神的状況をしっかり認識し、「素晴らしい人生」の理解と行動を深めるうえでのヒントを与えてくれるのである。

一. 現代人の生活と時代の精神状況

現代人の生活及び精神状況についての反省は、われわれの良く知っている話題である。多くの学者はそれぞれの専門領域の視点から「人類が自らにふさわしい方へと洗練していく発展モデル」³及び人々が求めるより良い生活（good life）方式に基づき、現代人の生活と精神状態に注目している。今までなかった社会変容、特に社会状態と社会体系の変化は各領域から人々に影響を与えている。「二十世紀末の今において、新たな世紀の敷居の前に立っていること、社会科学がこの新しい時代に自ら何らかの回答を提示しなければならないこと、この新時代そのものが私たちを現代性から超越させていくように導くことを多くの人は意識している。今、様々な用語が示している目まぐるしい多様性は、この時代の変化に関係しているが、一部の用語（例えば情報社会或いは消費社会）は明らかに新しい社会システムの出現と関連している。しかし、多くの用語、例えばポスト現代性、ポスト現代主義、ポスト工業社会、ポスト資本主義などは、実際には、終わりの前の事物の元の状態を表したのである」⁴。明らかに、「ポスト」というのは、ある学者がこ

² 赫伯特・斯宾塞：《社会静力学》，商务印书馆，2012年版，第45页。

³ 丘海雄・李敢：《国外多元视角“幸福”观研析》，《社会学研究》，2012年第2期，第224-241页。

⁴ 吉登斯：《现代性的后果》，译林出版社，2016年，第1页。

の社会の状態と変化の特徴に対して強調する意識から目にするようになったのであり、学者たちがどんな用語を使うかにかかわらず、ここで言う現代人は伝統に相對するだけでなく、完全に西洋的意義での工業化過程でもなく、現代に關連する人の「今」との生存状態を指すのである。一般的に言うなら、現代性への反省と批判だと考えられる。例えば、シュペングラーが「西洋の没落」で概括的に述べた。フロムは、現代人と自身、自然、社会の「三種類の疎外」を指摘した。ダニエル・ベルは系統的に「資本主義文化の矛盾」を反省した。マルクーゼは、豊かな追求を失う「一次元的人間」に注目している。現代人の心理的特徴を論じるとき、デュルケムは「アノミー」を使っている。ウェーバーは「疎外指向」を使った。フロイトは「強い不安」を使い、パーソンズは「感情中立性」、フロムは「市場的性格」、リースマンは「他人指向」を使った⁵など。

しかしながら、われわれは一体どういうふうに関現代人の生活と時代の精神状況を理解すればいいだろうか？ 答えは恐らく現代人という概念の中にあると考えられる。われわれは現代と現代人という概念を使う際、往々にして伝統に相對して使うことが多い。私達は誇りを持って現代人に独立、自由な主体性を与え、個人の自主性に基づく極限までの解放と、これを出発点とする自分を含めた人間関係の世界に対する征服の情熱を当然のことと考えている。我々はこれに「現代文明」という美名を冠した。実はこれはまさに現代人自身が克服し、回避することができない災難でもあるし、現代人の逃げにくい宿命でもある。関係の世界⁶の視点から見れば、現代人はかつてない葛藤と衝突に直面している。関係性とは対象性とも言え、人が実践している活動の中で生成され、人の存在様式と存在の特徴を持つ属人特性である。人は、意識した対象との間にその人にとっての現実の生活世界を築くのであり、また、意識した対象への関係状態がその人にとっての現実の生活状態なのである。

人が生活する世界は人の四種類の基本的な対象性活動によって構成され、人の関係の世界も四つの対応によって構成されている。一つ目は、人と自然との関係である。人と自然との関係は人間関係の世界で第一層の意味である。人と自然との関係の状態が人間の生活世界の物質占有状態を決める。人が人である大前提は自然に持ちえた肉体や生命で、つまり生きていることである。人間は生きていくには、物質の力を占めて自分の基本的な生存を満足させなければならない。だから現実における人は、まず、相当する物質力を占める可能性を持つ必要があり、彼は自分のやり方により社会で生きることができる。人と自然との関係の視点から見れば、現代人は大気や水および土壌の汚染、気候異常、多発する災害など多くの環境問題と生態危機の世界的な難題に直面している。より重要なのは、現代人はすでに物質生活の便利さといかなる場合でもたやすく物質を入手できることと、物質に頼りきることに慣れてしまったため、すでに存在している環境問題や生態危機を抑えることができなくなる。二つ目は、人と人との関係、すなわち人の社会的関

⁵ 周晓虹：《现代社会心理学》，上海人民出版社，2002年，第546页。

⁶ 丛晓波：《自尊的本质——一个基于生命境界视域下的思考》，东北师范大学出版社，2012年，第49-53页。

係である。人間の本质は、実際に社会関係を通じて表現されている。したがって、現実的には、人の本质は社会性である。「社会関係」とは、人と人との関係である。一方、社会は人と人との関係の結果で、人は自分以外の他人との相互作用の中で社会を形成している。その一方で、社会は個々に先立って存在し、社会と他人の影響は、個人の行為の根本的な指向である。そのため、人の生活の状態はまた人と社会および他人の関係の状態によるものである。他人・社会に対する認知・評価及び形成の態度、他人との付き合い、コミュニケーション、インタラクティブを含め、この基礎の上で合理的かつ有効な“主体間性”を、つまり良好な感情のつながり、一定の信用度、適切な協力精神などを確立することができるかどうかが含まれるのである。情報化、電子化、ネットワーク化の急速な発展によって、直接的付き合いをしなくても、何らの負担もなく過ごすことができる。特に若者はますます社会的な活動を減らしてきた。現代人は、直接会って交流することへの関心や能力を失いつつある。三つ目は、人間が自身との関係、すなわち主体としての自己の、客体としての自己状態に対する把握である。「自己意識」あるいは「自己概念」とも言い、自己認識、自己体験、自己コントロールを含む。人と自分の関係状態は人間関係の世界におけるキーポイントである。人はどのように自然力を得て、他人に対してどのように対処するかで、ある程度で人が自分をどのように認識しているのかを決定する。すなわち、自己の内在的な本性・欲求と自己の外部環境の中での地位・特徴についての意識である。グローバル化は、世界各国および人々の歴史的、地理的空間に基づいた距離を大幅に短縮した。しかし同時に社会文化の個人の日常生活の規則に対する一致性を大いに低下させた。限界のない文化競争と高効率の生産および生活により個人の自分に対する認知体験やコントロールをかつてない挑戦に直面させている。したがって、ギデンズは、現代性の最も重要な結果は、自分認知の危機と自己意識の再構築であると指摘した。四つ目は人と「神」という究極の信仰の関係である。人は種の繁殖と信仰によってでしか永遠の生という願望を実現しえないことが自然によって決定される。最終的に関心が向かう先は、現実での苦難を超越する勇気を持ち、限りある生命力を超越しようとするところだからである。現代人は「神が死んだ」と宣言した。伝統社会の安定的な心理の禁固と精神の庇護を破った後に、世界を網羅しようとする現代人は当てなくさまよう状態に陥った。科学と技術は最終的に「どこから来て、どこへ行くのか」という困惑を解決することはできず、それにつながる「存在の意味」も疑われる。「科学技術の長足の進歩に反して、人類の内面世界の危機がひそかに訪れ、人間の固有の自的豊かさや生命の炎も人々が恐れる中で消えようとしている」⁷。

二. 池田先生の幸福思想に関する三つの領域

多くの分厚い著作に比べて、池田先生の『幸福抄』は、かなり薄くて読みやすい著作であるが、池田先生の全集をめくると、池田先生は多くの対談集や著作の中で、幸福に言及し、そして幸福の思想は彼のすべての理論的思考と実践の論理の中に貫かれていることがわかる。では、池

⁷ 池田大作・基辛格：《关于“和平”、“人生”与“哲学”：池田大作与亨利基辛格对话录》，中国国际广播出版社1988年版，第197-198页。

田先生の幸福思想をどう理解するか、幸福思想は池田先生の理論と実践の中でどんな位置を占めるか、池田先生の幸福と他の諸思想の関係をどう理解するか？ 池田先生の理論と実践を広く見渡すと、池田先生の人の幸福についての思想は生命・生存・生活の三つの領域に含まれていると考えられる。

(一) 生命：尊厳と価値

幸福は、もちろん個人の主観的な感受性と関係しているが、心理学では主観的な幸福感と呼ばれる。しかし、個人が幸せを感じているかどうか、どんな状況で、常に幸福を感じるかどうかは個人の幸福に対する理解そして何が幸福であるか、すなわち幸福観と密接に関係する。池田先生の幸福思想の起点は生命である。「深い生命観を探究しないと、ゆったりした生活観や本当の幸福観を確立することができない」⁸。ここでの本当の幸せとは、池田先生の言う「相対的幸福」に対する「絶対的幸福」であり、物質的欲望や外部に対する欲求の満足から離脱し、時間が経っても変わることがない、外の条件に影響されることがない、個体の内在的躍動により常に生じる楽しさである。この本当の幸福は生命に対する深い思慮が必要である。では、生命を注視すれば本当の幸福を感じるのだろうか。生命の尊厳と価値とはまさに、楽しさが日常的欲望の満足を超越し絶対的幸福へと向かう基本な道筋である。言い換えれば、生命そのものの尊厳と価値こそが生命の追求の原点であるべきである。池田先生は「社会体制と幸福、物質の豊かさ及び幸福感は直接つながっているわけではない。人の生命という把握しがたい無視できない実体がそこにあると意識しなければならない。いや、それはただの存在だけではない。実は生命こそが全てを含む全体である。生命の尊厳を最も優先にしなければならない」⁹と指摘された。生命の尊厳は人の行動の基準と標準である。「誰の行動も生命の尊厳に対する認識に基づくべきである」そして「生命の尊厳を我々人間の生活目標とすべきである」¹⁰。大切なのは、生命の尊厳はすべての命が尊厳を持つというわけではない、あるいは、生命の尊厳とは完全に生れ付きのものではない。「命を真に事実上の尊厳的存在にするためには、一人一人の努力が必要だ、自分の尊厳に対して自分自身に責任があると言うべきだ」¹¹。生命の尊厳はただ自然に得るものではなく、ただ他人から与えられるものでもない、個人が自己能力を高める努力を通じて実現し完成したのである。そして、生命の尊厳の獲得は創造と関連しているのである。「無為に生きることには意味がない。人生は創造しなければならない」¹²。では何を創造するか、すべての創造が必ず尊厳を持っているのだろうか。「価値と言え唯一の価値が生命だ」¹³、生命の価値を創造するのは創造の主要な意義と基本

⁸ 池田大作：《私の人間学》、《池田大作全集》第119巻、聖教新聞社、1988年版。

⁹ 池田大作：《池田大作全集》第1巻、聖教新聞社1973年版。

¹⁰ 湯因比・池田大作：《展望二十一世紀：湯因比与池田大作对话录》荀春生等译、国际文化出版公司1985年版、第221頁。

¹¹ 池田大作：トインビー《二十一世紀への対話》、《池田大作全集》第3巻掲載、聖教新聞社2003年版。

¹² 池田大作：《人生必须要的是创造》、1995年11月14日在澳门大学的演讲。

¹³ 牧口常三郎：《創価教育学体系》第2巻《価値論》、聖教文庫1972年版、第40頁。

的な理念である。「人の存在自体が価値を創造する可能性がある」と認められるが、人の存在自体の価値は認められない¹⁴。価値を創造するのは生命の尊厳の標識で、生命の価値は生命価値の創造にある。尊厳と価値は池田先生が生命を理解する核心的概念であり、生命の観点から幸福の内包を解釈する基本的な特徴でもある。

(二) 生存：実践と徳性

生命の本質について、スピノザ（Baruch de Spinoza, 1632-1677）は『エチカ』でこのような命題を出した：「すべての自在なものは存在するように努力している」「一物が力を尽くして存在する努力は別ではなく、それがそのものの現実的な本質である」「一物は力を尽くして存在する努力は、いかなる特定の時間を含んでいない、不確定な時間を含むのだ」。ラッセルが言う今世紀最も重要なフランスの哲学者ベルクソン（Henri Bergson）は別の方法で似たような見方をしている：生命の本質が「連綿」だと思い、「将来へと侵入し、また前進する中で展開される過去の継続的歩みだ」¹⁵。生命の本質は「存在」つまり生命を継続することであることが分かる。これは人を含むすべての生命の最も根本的な性質であり、人のこの本質はより豊かに表現されている。実践と徳性を通じて幸福を得ることは生存と生命の連続という意味からして、人が避けられない道だ。幸福は個人の実践に由来し、「幸福は夢ではなく、どこからかやってくるのではなく、誰かから与えられたものではない。それはあなた自身の堅固な心のまばゆい光の中に存在する。自分の心を開けることで、幸せは自分から作っていく」¹⁶。実践は人間の生存の前提であり根本的な道筋である。「行動の主体性と自由性は人間の特質と言え、人の行動の方式の体系は“文化”で“本能”ではない」¹⁷。では、何が文化なのか？「英語の文化（culture）の語源となるラテン語が耕作（cultura）という言葉であることは知られている。人間の無限の可能性という大地を耕し、才能の芽を伸ばしゆく過程そのものが文化に通じます。その意味でも文化とは自己を耕し、鍛えゆくことです」¹⁸。実践を強調するだけでなく、生存の意味で、池田先生は徳性の実践と実践の中で徳性を得ることを強調している。「信念のない人は何もできない、私たちは幸せな鍛冶屋である。意志の強い人は、運命の転換点でも自分の人生に影響を与えられると信じる」¹⁹。徳性は後天的に修養されるものであり、自己に対するコントロールである。徳性を強調するのは、「人間性において善悪が共存している以上、それは、人間性の善の方面を自由に発展させることを重視し、悪の方面に対しては抑制しなければならないからだ」²⁰。池田先生は幸せを実現するために、個人

¹⁴ 樋口勝：《創价教育学中的人的価値》，載《与池田大作对话文明重生》，曲庆彪・寺西宏友主编，中国社会科学出版社，2011年版，第118页。

¹⁵ 伯格森：《创造进化论》，商务印书馆，2004年版，第10页。

¹⁶ 池田大作：《谈幸福》，卞立强等译，北京：中国文联出版社，2009年4月出版，第3页。

¹⁷ 季羨林・池田大作・蒋忠新：《畅谈东方智慧》，人民日报出版社，2011年版，155页。

¹⁸ 池田大作・高占祥：《地球を結ぶ文化力》潮出版社2012年出版，269-270页。

¹⁹ 季羨林・池田大作・蒋忠新：《畅谈东方智慧》，人民日报出版社，2011年版，22-23页。

²⁰ 汤因比・池田大作：《展望二十一世纪：汤因比与池田大作对话录》荀春生等译，国际文化出版公司1985年版，第385页。

が持つべき六つの品性を提起した。一は充実すること、二は深き哲学を持つこと、三は強い信念を持つこと、四は朗らかに生き生きと暮らすこと、五は勇気を持つこと、最後は寛容さを持つことである。つまり、幸せを実現する六つの鍵である。充実はやる気に満ちた有意義な行動、忙しくて充実した人はつまらない人に比べて幸せである²¹。この「良い品性」と美德について、全世界の3000年の歴史に及ぶさまざまな文化を研究した後で、セリグマン (Martin E. P. Seligman) に「知恵と知識、勇気、仁愛、正義、節度と精神の卓越」と解釈されている²²。

(三) 生活：調和と美

幸福について、池田先生は内面的には相対的幸福と絶対的幸福を区別しているだけではなく、実践の上で徳性教養の理論的思考を提出し、もっと重要なのは彼は現実の充足と変化に注目している。幸福は人生の理想であり、現実的な生活そのものであるべきだとしている。「幸福は遠くて及ばない場所にあるのではない。それは自分の生活の中に存在している。自分の生活の道に存在し、自分の心にある」²³。「私たちにとって、人であることはすべての出発点であり、同時にすべての帰結点である。そしてさまざまな人生の態度の規範であるべきだ」。「では、人として生きているのはどういうことだろうか？ 難しい哲学について話そうとは思わない。険しい顔で抽象的な議論をするのは、かえって生活感情から離れてしまう」。「人として生きているのは、兄弟や親戚や友人、近所、更に広い社会とはまったく無関係だ。すべてを貫く本質は人である」²⁴。人の生活の世界にはいろいろな関係が含まれる。「人は単に一つの国家における基礎的な社会的存在ではない、人の社会と地球全体の自然界、また全宇宙に連鎖した生命である」²⁵。世界の諸関係という視点から、池田先生は環境問題に関心を持ち、人と他人、社会との調和を強調している。「人は一人では生きられない。そして、人間の個性もおのずから完成されるわけではありません。家族の中で、学校生活の中で、そして社会の中で、他者から触発され、励まされ、他者との交流を通して鍛えられて、個性は個性としての相貌を現してくる。」「人は自然・社会との環境に調和して生活することによって価値を獲得し、自己特有の個性に従って価値の創造の中で生活し、それによって社会の文化に貢献し、もって世に生まれた本懐を遂げたと満足するものである」²⁶。「自分の幸せを他人を不幸にしてまで築いてはいけない」²⁷。真の幸福は「自他共の幸福である」、一方的に他人のためでもなく、自分のために他人を顧みないのでもない。そのため、池田先生は対話を大切にしている。国家の間だけでなく、民族の間には対話が必要である。1975年5月27日、

²¹ 池田 SGI 会長指導選集編集委員会「幸福と平和を創る智慧・第1部 (上)」前掲 37 頁。

²² [美] マ丁・塞利格マン：《真实的幸福》，北方联合出版传媒股份有限公司，2013 年版，第 138 頁。

²³ 池田大作：《我的人学》，铭九等译，北京大学出版社，1992 年版，第 533 頁。

²⁴ 池田大作：《谈幸福》，中国文联出版社，2009 年，第 62 頁。

²⁵ 池田大作・汤因比：《眺望人类新纪元—汤因比与池田大作对谈录》，荀春生等译，天地图书有限公司 2000 年版，第 172 頁。

²⁶ 池田大作・高占祥：《地球を結ぶ文化力》，潮出版社，2012 年出版，247-251 頁。

²⁷ 池田大作：《希望—新・人間革命》，SGI 通讯译，马来西亚创价学会 2005 年版第 26 頁。

池田先生はモスクワ大学で講演を発表した際に「今はいかなる時代よりも、民族・社会制度とイデオロギーの障害を超え、全体の文化の分野で民衆の交流を行う必要がある、即ち人と人の心を結びつけた精神のシルクロードを開くことである」²⁸と指摘した。また、人と人との間にも対話が必要である。「相互不信という人間の前途を妨げる大きな壁を越えるために、結局人と人との個別交流を強化しなければならない」²⁹。池田先生が最終的に実現しようとする幸福とは、生活世界の調和と美である。よって自然、自己と社会のほかにも、池田先生は人生の意味に対する解釈を重視し、精神の自律と信仰を重視し、「宗教は人の幸福のためにあり、決して人は宗教のためにあるのではない」³⁰とも明らかにした。これは伝統的な宗教疎外と違って、理性以外に現代人の精神的な家を構築している。調和は池田先生が現代人の幸せな生活を築く重要な特徴であるが、このような調和は融通のきかないものではなく、生き生きとして美しいものである。池田先生は文章が愉快かつ優美で、文学・音楽・写真撮影など多くの分野で造詣が顕著である、「世界文化の有名人」として「桂冠詩人称号」「フランス芸術文化勲章」「中国芸術貢献賞」などを受賞している。池田先生の写真は奇抜な静態でもあれば、靈動自由なものでもあり、生活の中で生活を超えた知恵の美である。生命の中の様々な美を追求し感受し、精神を豊かにし満足させており、それ自体が生活の幸福である。

三. 現代人の精神におけるいくつかの反射と啓示

(一) 我と非我

私は何者で、どこにいるのか。それは何で決まるか。私は何者なのかという問題についての答えは、個体が自分や自分と関わる存在とどう向き合うかを決定し、いかに生活するかを決める。近代化は個人の独立と自由を前提にしており、個体の主体性と自主性は十分に認められている。しかし、この優越性を強調しすぎることが、様々な現代的な問題が生じる主要な原因となることは明らかである。そのため、現代的な危機を明確にし、根本的に解決するため、私は何者かを再認識しはじめなければならない。いうまでもなく、ジェームズが言った「自己は個人の宇宙の中心である」のように、世界そして万物の中心は自己で、自分がなければ世界そして万物は存在するのが難しい。しかし同時に私たちも自己の本質は、関係構成の相互影響によって互いに支え合う統一体であることをはっきりと理解しなければならない。自分が現実的にはまず自分と他人との社会関係の中に現れ、そしてまた現代人の自己はもっと豊かで広くなるのである。牧口常三郎は『人生地理学』の中で「すべての人は3つの自覚をもつべきだ、つまり、地域に根ざした郷土民であり、国に属する国民であり、そして世界に広くつながる世界の民でもある」(趣意)³¹と主

²⁸ 池田大作：《東西文化の新しい道》、《池田大作全集》第1巻掲載、聖教新聞社、1998年版、第310頁。

²⁹ 池田大作：《我的履歴書》、吉林人民出版社、1984年版、第98頁。

³⁰ 季羨林・池田大作・蔣忠新：《畅谈东方智慧》、人民日报出版社、2011年版、第61頁。

³¹ 牧口常三郎：《人生地理学》、《牧口常三郎全集》第1巻掲載、第三文明社、1983年版、第15頁。

張された。池田先生はさらに、「人は自分に対する認識は単に民族・人種などの伝統的な視点にとらわれてはならない。人という共通の基礎に立ち、良き隣人・良き人・良き地球人として共に生きていくことを促すべきである」³²と主張する。幸福は人生の最高の理想であり、もちろん我と非我という問題を処理しなければならない。「縦の面においては、われわれは自立したイメージを確立しなければならないし、横の面では、人と人との間に世界の市民と市民の間で互いに団結し合い、そして団結を広く普及させて大きな波にさせるべきである」³³。実際ここで、池田先生は現代人の自己意識の問題を提起した。まさに鳩山氏の言うとおり「私たち一人一人の人は無限の個性を持っているかけがえのない存在である、だからこそ、自分の運命を決める権利があり、この選択の結果を負う責任の義務もある。このような『個人の自立』の原理を重視するとともに、それぞれの自立性と異質性を尊重し合い、互いに一致した点を追求して互いに協力すること——他者との共生の原理を重視すべきである。このような自主と共生の原理、日本社会の人と人との関係だけではなく、そして日本と世界の関係や人間と自然との関係に貫かなければならない」³⁴。それだけではなく、池田先生が提唱した共生の精神は、本質的には現代人の自己意識の問題にも答えている。どんな意味でも、現代人とは自分を強調する前提で生まれてきたものだが、しかし、我と非我の間でますます限界が見えなくなっているのは現代人の生命の特徴であろう。池田先生の言う、あらゆる生命に影響を及ぼしていくこととは、自分と社会・自然界・私たちの精神世界の「大我」を含め、自分と自己が関係する世界の調和である。非我と我とは明確な限界がなく、共生という基礎の上で自己を実現し自分を完成させるものである。

(二) 物と心

ある意味で、近代化は人の物への最大の解放だと言える。現代人は生産力を最大限に占有し、最も豊かな物質文明を創造した。しかしながら、物の視点からすると現代人はますます物質生活に依存して、ますます物質にとらわれ束縛されている。言い換えれば、現代人はすでに物の有効性に抵抗しえなくなってきたおり、物に囲まれたことによる利便性から脱することができない。同時に、芸術と美はますます博物館という象牙の塔に隔離され、精神の独立性と自由性は相対的に弱くなった。こうなると、何が幸せで、何が良い生活なのか？ 現代人の幸福は必ず一定の物質面での満足と豊かさに関連しており、必ず名利、金銭、地位に関連している。ところが、これらの幸福は順応性を持っている、つまり、時間が経つにつれて人々は何かの物欲によって生まれた喜びを自然に忘れる。明らかに、本当の満足を得ることができないのである。これではただ「相対的幸福」というだけである。本当の良い生活は心の物への支えであり、心が物を基礎としながら物を超越するのである。「『絶対的幸福』とは、いかなる苦痛もない真空状態のことでも、永遠

³² 池田大作・杜维明：《对话的文明——池田大作与杜维明对谈集》商务印书馆，2008年版，第138页。

³³ 池田大作：《人才是创造历史的主角》1984年6月9日在上海复旦大学的演讲。

³⁴ 鳩山由纪夫：《我的政治哲学》

<http://news.goo.ne.jp/article/php/politics/php-20090831-01.html>

に楽しい夢の世界でもない。生きている人ならば、喜怒哀楽もある。しかし、喜怒哀楽に引きずられ支配されるのではなく、あたかもサーフィンを楽し々とこなすように楽しむのであり、この領域を絶対的幸福と呼ぶ³⁵。物を超越することで、心は自由になり、限界を超越する意義を体感できるのであり、意義の体験に対し自分の尊厳を得ることができる。「人間は生きる意義を求める動物である。このような追求があれば、どんな苦しみにも打ち負かされることはない。このような追求がなければ、たとえ他のすべてを持っていても、それは空虚である。心はゆっくりと死に向かうのである」³⁶。意義を体験するからこそ、人は本当に満足し、生き生きと生命の力を獲得することができる。物と心に関して、ギリシア人はむしろ極めて得がたい本能の優雅さと調和を保ち続けた。彼らは「物からのリラックス」に精神的な喜びを伴わせることを知っていた。現代人にとっては、素朴ながらも満ち足りた状態に戻ることはできないし、「物を話題にただで顔色を変える」必要はない。だから、簡単に欲望に抵抗し、物質を拒否することはない、例えば、贅沢品を求めているうちに、贅沢品に描かれた美しさのように人々が贅沢品の美しさを通じて、品性のある生活を求めるようになればそんな追求自体も美しいことだろう。

(三) 知と行

実のところ、自分や自然、他人との社会や信仰に対しても、どう対応したらいいのか——人は何であるべきかと人がどのようにすべきであるかという問題は、とてつもなく理解不能といった問題ではない。現代人にとって、何をもって良い生活とするかは容易に考えやすく、自分はどうすべきかわからないというわけではない。問題の根本は主観的に怠けているか、あるいは先入観・射幸心を持っているためやろうとせず、一時的に達成できなくなっているのだ。孔子が「言に於いて訥し、行に於いて敏する」と強調するのは、知っているのにできないのが人の常で、道理は簡単でも実行するのは容易ではないからである。池田先生の卓越なところは単に理論信仰、パステデザインだけではなく、彼は常に理想を実践していることである。彼はより良い生活をしたければ、人自身を変えて「人間革命」を行わなければならないと考えている。人間革命は人を人とし人間的な生活を持つうえでの根本的な方法である。「このような人間の生命の奥から生まれ自他ともに共同発展するはたらきを『慈悲』と呼ぶ」、「人は宇宙の生命に含まれる慈悲と知恵を自覚して表現し、『人間革命』を実行できる生命の存在である」³⁷。人自身を変えることから自然・社会・世界が変わっていくが、「近年多発する深刻な自然災害を観察すると、その中には自然界と人間の力との関係が逆転した結果だと思わざるを得ない現象が多い」。「地球は私たち人類がそこで生きる宇宙のオアシスであり、私たちはなんとかしてそれを救わなければならない、壊滅させないようにしなければならない。だから、人類の行為が自然界の営み、自然界の協調に対する影響を、真面目にしっかり考える必要があり、自然環境に対して危害をもたらす可能性がある行為を

³⁵ 池田大作：《談幸福》，商务印书馆2009年版，第10頁。

³⁶ 池田大作：《談幸福》，中国文联出版社2007年版，第79頁。

³⁷ 季羨林・池田大作・蔣忠新：《暢談東方智慧》，人民日報出版社，2011年版，142頁。

厳しく制限するのだ」³⁸。人間革命を実現するには、教育によって人に影響を与える必要がある。「教育の目的は人の幸福のため」。だから、「21世紀の教育を考えると、私はまず『社会のための教育』を『教育のための社会』に変えるべきということを当面の急務として呼びかけたいのである」³⁹。教育の影響で人を変えることによって、人の自己の変化を促進して、さらに人の生活と世界を変える。知者は善であり、知って行動する者は上善であり、行う者は至上であり、行う者は境がない。このような意味で、平和主義・人間主義・文化主義・教育主義は例外なくすべてが池田先生の幸福理念の偉大な実践なのである。

³⁸ 汤因比・池田大作《选择生命》，商务印书馆，2017年出版，第50-51页。

³⁹ 小山内优：《关于“为了教育的社会”的研究》，载《开创精神丝绸之路的新纪元》，寺西宏友 萧正洪主编，社会科学文献出版社，2016年版，第321-322页。